

学生相談室報告 (17)

Report from the Counseling Room (No.17)

額 康 兵

K o h e i K O K E T S U

In this note, I briefly mention some impression
on "SHINDLER'S LIST" by Thomas Keneally.

最近、トウマス・キニーリー（訳者：磯野 宏）と言う人が書いた『シンドラーのリスト』（新潮文庫）を読んだ。文庫本にしてはかなりの頁数なので、一気に読む事は出来なかった。が、読み終わった後、感じた事はなんとも言い様のないやりきれなさであった。

私がこのノートで述べたい事は彼の書物についての感想では無く、何故、ドイツ・ナチスがあの様な残虐な行為が出来たのか、いや、むしろ、人間は何故、あの様な行為が出来るとか不思議に思った。

確かに、戦争と言う極限状況に置かれた時、人は残忍な行為に走る事はよく知られている。例えば、戦争と言う狂気に近い状況では、勝者が敗者に非人道的な残虐な行為に走る事は、通常当たり前にさえなっている趣がある。が、翻って考えた場合、ドイツ・ナチスの強制収容所は人間がユダヤ人を無差別に殺戮する殺人工場であった。これは戦争の時よく起きる単なる非道な行為であるとは言えないと思う。それは殺人工場を造る事と、戦争による死とは明確に次元が異なると思われるからである。又、何故、主にユダヤ人だ

けが殺戮されたのかその正当性なるものは今もって不明に近い。

私が西欧のキリスト教思想に興味を持ち初めてから、今日に至るまでドイツ・ナチスのこの残虐非道さについては常に脳裏から離れた事は無かった。色々な書物、特にドイツ語圏で書かれた、神学、哲学、その他の思想的な書を紐解いてみても、私の問題を解決する様な書物は発見出来なかった。反対に、戦争だからやもうえざる行為である、と言った様なむしろ正当化を容認すらする様な書物が大方を占めていた。以下に簡単に述べるが、C.G.ユングは西欧の思想家の中で全く別の見解を有していた。

ユングは人間の深層心理に光を当て、人間には『共通の無意識』が存在する事を数々の研究から仮説として提言した。

結論から述べるならば、ナチス・ドイツの行為は、その原因なるものを探るならば、歴史を遙かに遡って、A.D. 315年キリスト教が当時のローマ帝国によって公認の宗教とされてからであるとさえ言える。概略的に言えば、A.D. 1世紀前後、現在のイスラエルに後のキリスト教の母胎になる様な様々な宗教的運動が起きた時、イスラエルを取り

巻く近隣諸国には様々な宗教が存在した。例えば、その一つに「グノーシス」の宗教があげられる（「グノーシス」とは、ギリシア語で「直観的洞察によって与えられる深い奥義的英知」の事であり、グノーシス主義の提唱者たちは、聖書の「真の理解」は、このグノーシスに到達した人々によってのみ得られると主張した）。【死海文書】、【グノーシス文書】、【ヘルメス文書】、と言った中近東の諸宗教の文書を無視して、キリスト教、特にイエスについて語る事は今日ではもはや容認されないであろう。何故なら、聖書そのものが、中近東の諸宗教の文書による影響が大きいからである。

本題に戻るが、ユングは先に掲げた「グノーシス」の宗教文書に多大の関心を払い、まさに「グノーシス」の宗教文書こそ人間の深層意識を大胆に表現していると考えた。ここで問題になる事は、先に述べた、キリスト教が A. D. 315年にローマ帝国の公認の宗教となった時から、キリスト教以外の宗教に対して弾圧に等しい行為を行った事である。

「グノーシス」の宗教文書に表明されていた、人間の赤裸々な姿はローマ帝国即ち、当時のローマ・カトリック教会によって抑圧され、多くの人々の深層意識の異端的底層流と成って時代を越えて今日まで及んでいると考えるのが、ユングであり、同時に、この人々の深層意識の底層流には、異教的な「金髪の野獣」の魂が潜んでおり、キリスト教は何世紀もの間、この「金髪の野獣」の魂を飼い慣らす事に成功してきた。が、特に、ルネサンス以後、キリスト教的世界観がその権威を喪失し、さらに、キリスト教精神の衰退が、ヨーロッパ的人間の魂の深層に潜在する野獣性を次第に増大させ、爆発させるまでに至ったと言うのである。

今、仮に、ヨーロッパ文明がキリス

ト教文明を生み出したとするならば、（キリスト教文明がヨーロッパ文明を生み出したと考えてもあながち間違いではなかろう）、アウシュヴィッツ、やブッヘンワルトもヨーロッパ文明が生み出したものであろう。

以上、大まかにドイツ・ナチズムとキリスト教と言うあまりにも大きな問題を簡略的に素描した。何時か本格的にこの問題に取り組む事が出来ればと考えている。

参考文献

- (1) C. G. ユング著『心理学と錬金術』（二分冊）人文書院
- (2) C. G. ユング著『心理学と宗教』人文書院
- (3) 林 道義著『ユング心理学の応用』みすず書房
- (4) 湯浅泰雄著『ユングとキリスト教』人文書院
- (5) 湯浅泰雄著『ユングとヨーロッパ精神』人文書院
- (6) ハンス・ヨナス著『グノーシスの宗教』人文書院
- (7) 荒井 献訳『ヘルメス文書』朝日出版社
- (8) 日本聖書学研究所編『死海文書』山本書店
- (9) バーバラ・スィーリング著『イエスのミステリー』NHK出版
- (10) トマス・キニーリー著『シンドラーのリスト』新潮文庫

付記：過去1年間に学生相談室で取り扱った件数を相談内容別に集計した下表を参照頂きたい。

相談内容別取扱件数

(平成5年3月18日～平成6年3月19日)

相 談 内 容	件数	%
1. 学業全般 (留年を含む)	35	31
2. 学生生活	34	30
3. 対人関係 (恋愛を含む)	10	9
4. 精神衛生	23	20
5. 進路問題 (専攻・就職)	6	5
6. 健康問題	6	5
計	114	100

(受理 平成6年3月22日)